

ばれっと

2009
6月
No.118

■ 目次 ■

- | | |
|---------|--|
| すぽっとらいと | キャリア教育を通して、子どもたちの職業感を培う
特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク |
| アラカルト | サポセン開館10周年記念特集② |
| サポセン日記 | 図書コーナー |
| お知らせ | 事務用ブースの使用団体を募集します！ |
| イベント紹介 | 6月のイベント紹介 |
| 今月のサポ本 | 『世界一あたたかい人生相談—幸せの人生レシピ』 |

10周年記念サポセンアルバム

Album No.3



利用者懇談会【さぼ談】（2003年12月10日）

利用者で作ってきたサポセン 利用者懇談会【さぼ談】

窓口などで利用者とコミュニケーションをとりながら、少しずつサポセンの機能やサービスを改善してきました。

さぼ談は、利用者がより提案しやすいよう設置された懇談会です。サポセンへの要望や利用者同士の交流を育んできました。

こうしてサポセンは、みんなで少しずつ、つくってきた施設なんです。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

キャリア教育を通して、子どもたちの職業感を培う 特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク

子どもから大人まで、一人ひとりの個性や能力を引き出して、地域の未来を担う人材を育てることを目的にしている、特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク。

「自ら気づき、学び、行動する力」「自立する力」「人と関わる力」など社会で生きていく力をはぐくむことが大切だと考え活動しています。

今回は代表の伊勢みゆきさんとスタッフの田中聡子さん、松村真理子さんにお話を伺いました。

● キャリア教育の推進を目指して

特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク（以下、まなびのたね）は、学校教育やキャリア教育、また地域のまちづくりなどに携わっていたり関心を持っているメンバーが集まってできた団体です。ファシリテーションなどの勉強をして活動していたメンバーが、経済産業省が推進している“キャリア教育”と出会い、2007年より活動を始めました。その後、学校や企業、行政、NPO等との連携などの仕組みづくりのために2008年8月に法人格を取得しました。

キャリア教育とは、勤労観や職業観を養うことで、社会の変化に対応できる能力や主体的に自分の進路を選択できる能力を身に付ける教育です。

人との関わりの中で自分や他者を認め、自分の役割について考え、自分と周りの人たちの良さを組み合わせて一緒にものごとに取り組むことが、これらの能力に繋がると、まなびのたねは考えています。社会に出てから「自分は何をすればいいのか」と戸惑う人がいますが、その戸惑いを少しでも軽減するために、キャリア教育を推進しています。現在、キャリア教育は、内閣府や文部科学省でも推進していて、仙台市でも“自分づくり教育”として公立のいくつかの小学校で授業に組み込まれています。まなびのたねは「キャリア教育を通して、人が地域や社会と関わりながら自分自身を見つめ、その中で子どもたちが行きたい方向を一緒に見つけていきたい」と考えているそうです。

● 事業を通して学びあう

まなびのたねが昨年度行った事業のひとつが「キャリア教育支援事業」。小学校の授業にキャリア教育の時間を組み込む際のプログラム開発とその授業の実施です。事前に担任の先生と綿密な打合わせを行いながら、授業を構成します。例えば“お仕事ルーツ”というプログラムでは、自分

の父母、祖父母、曾祖父母の時代までの仕事を調べ、その変遷から社会の移り変わりを探り、自分の将来の仕事をイメージする、というワークショップです。また、現代社会においてのいろいろなタイプの働き方のメリットとデメリット、社会問題を解決するための仕事について考えたりもします。

授業を受けた子どもたちからは、「世の中はいろいろな仕事があるから成り立っているということを確認できた」「それぞれ仕事に対する意見が違ったので、他の人の意見を聞いているいろいろな新しい考えがもてたのでよかった」という感想が出ています。まなびのたねの皆さんは、子ども自身が、自分の成長やクラスの変化を自覚していることに、驚いているそうです。



▼
右から代表の伊勢さん、田中さん、松村さん

また、地域づくりのコーディネーターを養成する「地域づくり人材育成講座」、学校教育に関心を持っている地域の人たちや組織を対象にした「キャリア教育コーディネーター養成講座」も開催しました。

伊勢さんは「講座を開催していると、地域で活動する方々や行政、企業の方々などとの出会い、つながりが出来ます。その中で私たちから情報を提供するだけではなく、逆にいろいろな気づきや学びを頂くことが多いです。お互いに学び合えて、結果として私たちも団体としてもどんどん成長していけるようになるんです」と話していました。

団体紹介

特定非営利活動法人 まなびのたねネットワーク

学校・地域・企業・行政との連携を活かした学校教育支援を通して、教育現場と地域社会、人と人がつながることを目指している。ワークショップ(参加型体験学習)を活用し、社会人基礎力を育む人材育成・ゆるやかな場づくり・ネットワーク形成の活動をしている。

<団体連絡・問合せ先>

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3 NO.102
 TEL 090-1376-3572
 FAX 022-268-4042
 メール manabinotane@yahoo.co.jp



▲ 小学校での授業風景

● 見えてきた成果

まなびのたねは、2008年12月に、キャリア教育の充実発展のために尽力している団体として認められ『キャリア教育文部科学大臣賞』を受賞しました。仙台市からは5団体が表彰されていますが、NPOとしては仙台市で初の受賞になります。活動の成果が公に認められ、この半年間で随分と団体の認知度も上がり、仕事や取材なども増えたそうです。

また、今年2月に地域づくり人材育成の4回に渡る連続講座を開催しました。これは、地域にある資源や情報をつなぎ合わせ、意見をまとめながら課題を解決していく手法を考えるワークショップで、30人以上の出席者が毎回ほとんど欠席無しで参加してくれたことに熱意を感じ、とてもやりがいを感じたそうです。また、受講者が団体のミッションに賛同して会員になってくれたり、関連がある情報を提供してくれたり、参加者同士でネットワークを広げていったりと、活動の成果が目に見える形で表れてきていることは団体にとって、活動を継続していく自信とエネルギーの源になっているようです。

● まなびのたねとサポセン

まなびのたねは、今年2月からサポセンの事務用ブースに入居し、活動拠点としています。団体設立前からサポセンを利用しているので、サポセンのスタッフともすっかり顔なじみになっています。「立ち上げ時期には助成金情報の収集や資料作成のためのパソコン利用などで、たくさん利用していました。またメンバーが集まって話し合いが出来る唯一の場所でした」と松村さん。

「現在も日曜日以外は午後10時まで利用できるので仕事が終わってからも利用できるし、チラシの印刷や、打合せのための貸室、交流サロンもふんだんに使っています」と嬉しいくらいにサポセンをフルに活用しています。

● 仕組みづくりと自立

現在の主な事務局のスタッフは3人ですが、法人化してからまだ間もなく、細かい事務作業などまでなかなか手が廻らない状況。しかし活動の時期や時間が不安定な状態で新たに人材を募集するのは難しく、また団体としてもしっかりとした受入れ態勢が整っていないため、現在、団体の仕組みづくりが大きな課題になっているそうです。

また、今後の大きな目標は“自立”だそうです。今までは、ほとんどが受託事業でしたが、これからは団体独自の商品(自主事業)を開発し、経済的な自立もしたいと考えています。それ以外にも、大人も子どもも気軽に利用できる“場”作りをしたいそうです。人が「そもそも自分はどうしたいのか、どうなりたいのか」を考え迷ってしまった時、その“そもそも”の部分を見つけるお手伝いをして、次のステップに進むためのワークショップをしてみたいとも考えているそうです。

まなびのたねは、スタッフそれぞれの得意分野をうまく活かし融合させて、人が社会で生きていく力を育み、地域社会や教育現場とつなぎ、新しいネットワークを構築していく事を、これからも目指していきます。



取材を終えて…

お話を聞いている間、頻繁に「人と関わる、つながる」という言葉が出てきて、スタッフの皆さんが人との出会いを本当に大切にしていることが、ひしひしと伝わってきました。私たち一人ひとりが、それぞれの環境で生きていく中で出会う関わりをひとつも無駄にせず、自分と地域の未来のために存分に活かしたいという、とても強い思いを感じました。

(担当 能藤 玲子)

サポセン 10周年記念特集②

◆サポセンは、おかげさまで2009年6月に10周年を迎えます。

このコーナーでは、これまでのサポセンの軌跡をダイジェストで、振り返ります。詳しい内容については、10周年記念誌に掲載する予定です。

前号よりスタートした、サポセン10周年記念特集。今回は、1999年のオープンから3年間、サポセンに関わってきた関係者と利用者の方に、当時のお話を伺いました。

仙台市の担当者

■オープン当時の仙台市市民活動支援室長 鈴木憲一さん（現、企画市民局区政課長）

—オープンから3年間、サポセンという現場にいて感じたことは何ですか？

実際に現場にいたことで、個々の団体の活動の様子を知ることができ、市民活動の本質に触れることができました。仙台の市民活動については、ある程度は想定していましたが、実際には想像をはるかに超えていました。若者からシニアまで、行政とは違う立場で、環境、福祉、国際交流、まちづくりなど、さまざまなテーマに主体的に真摯に取り組んでいる姿に、感動しました。

また、公設民営（NPO営）という全国的にも先駆的な現場にいたわけですが、毎日が発見や驚きの連続で、刺激的でした。

—NPOの運営を、どのように感じましたか？

運営を担うせんだい・みやぎNPOセンターはNPOの中間支援組織として、ソフト面でのノウハウがありました。団体情報ファイルなど市民活動に関する情報が目に見えて増えていきましたが、新聞記事などから情報を収集し蓄積していく努力や、中間支援相互の情報網には驚きました。

また、スタッフが常に利用者の視点に立って、一つひとつのサービスを改善していこうとする姿勢が伝わってきて刺激的でした。行政では、一定の形ができたなら、そのまま継続しようとなりがちですが、スタッフ全員が日々議論を重ねながら、サービス改善を次々に実現していく姿勢には感心しました。もちろん、行政のルールとは違いとまどうこともありました。それでも、お互いに議論し相互理解で新しいものを作っていこうという意識がありました。それは、まさに協働のスタイルだったと思います。

—3年間の成果は何ですか？

行政とは違う立場で公共を担う市民をどう支援していくか、サポセンは市民協働を支え実現していくための施設としてスタートしました。サポセンの運営を通じ、公共の新たな担い手としてのNPOの力を確信することができましたし、手ごたえを感じました。

また、市民協働はサポセンの中だけにとどまっているのではなく、他の部署にも広まってこそ評価されるべきだと思っています。その意味では、仙台市ではNPOとの協働がさまざまな分野で行われるようになっていきます。現場において、市民活動や協働についての理解を深めたことで、庁内での市民協働の窓口になれたのではないかと思います。

—これからのサポセンに期待することは何ですか？

オープン当時の古い施設から、新しい施設に移って少し雰囲気も変わりましたね。時代によって市民活動のテーマもニーズも変わってきます。これからも、常にニーズに応えられるサポセンであって欲しいと思っています。



収集した市民活動情報
「団体情報ファイル」

サポセンスタッフ

■オープン当時、NPO法人のスタッフとして、サポセンの業務にあたった 工藤寛之さん（現、多賀城市市民活動サポートセンター長）

—オープン当時、サポセンの現場で感じたことは何ですか？

開館当時のスタッフは全国から集まっており、来るべき新たな市民社会のためにも、絶対に

このチャレンジを成功させようという強い思いがありました。全国初の公設民営の施設ということもあり、先行事例として大きな使命感を感じつつ、常に緊張感をもって勤務していたことを思い出します。なにより、利用者と一緒に「新しいまちづくりをしていくんだ」という意気込みがありました。

—民営（NPO営）として、どのようなことを心がけましたか？

私たちがNPOの中間支援組織としてこだわったのは、市民と行政が一緒になって「公共空間をつくる」ということです。慣例やルールにしばられずに、市民（利用者）の目線での公共サービスのあり方を意識しました。

利用者は、サービスを受けるだけのお客様ではなくパートナーとして考えていましたし、皆さんから市民として意見を寄せていただくことで、施設運営を一緒に作り上げていこうというスタンスを大切にしました。そのため、窓口では利用者の皆さんとの対話を大切にしました。対話の中から、ニーズをつかみ、必要な機能や支援業務を見直し、新たなサービスを生み出すという作業を繰り返しました。

また、仙台市の担当者とよく議論をしました。サポセンをご利用いただけるかどうかの判断基準に「公益性」がありますが、これは定義が簡単ではありませんし、仙台市と私たちの考えが必ずしも一致するわけではありませんでした。そのような場合、私たちは市民側の視点から判断理由を明確にし、一つひとつのケースについて議論を重ね、「公益とは何か」を常に問い続けました。結果として、オープンから3年間で、公益や公共のとらえ方の基盤づくりができたのではないかと思います。

サポセン利用者

■特定非営利活動法人

東北マンション管理組合連合会

会長 鎌田 担さん 副会長 木村 茂さん

副会長 佐藤 末夫さん

—2001年12月～2004年2月まで、サポセンの事務用ブースを利用されていましたが、利用のきっかけを教えてください。

鎌田：1999年2月に団体を設立しましたが、事務所を持っていませんでした。そのため、会員の勤める会社を好意で貸していただいたり、あるいは会員宅の電話を使用して電話相談を受けたりという状態でした。

サポセンがオープンしてからは、セミナー開

催準備のための打ち合わせや作業のため、貸室や印刷作業室を使用していたので、そこから、事務用ブースの入居へつながりました。

ブースは、今から考えると机ひとつの狭い場所でしたが、自分たちのお城を持ったみたいなき分で嬉しかったですよ。私たちのような市民活動団体をサポートする施設があるということはありがたかったです。

—事務用ブースに入居していかがでしたか？

佐藤：狭いながら、来訪者を意識して机の向きを工夫し、相談対応や事務作業にあたりました。ブースの前のスペースで打合せを行うこともできました。大勢で専有して、スタッフの方から注意されたこともあったけどね。

広さの問題などはありましたが、公共施設にブースがあるということは、団体の信頼を高めるうえで重要なポイントになりました。

鎌田：ブース卒業後は、民間のマンションの一室を借りることになりました。結果論ですが、3年という期限付きだったことは、前向きに捉え、組織をステップアップさせるためには良かったと思います。



事務用ブースで
相談対応する佐藤副会長

—これからのサポセンに望むことは何ですか？

木村：事務所を別に構えてからも、サポセンはイベントや打合せで使用しています。私たちの場合、土曜日にイベントを開催することが多いのですが、セミナーホールが取れにくくなっているため、困っています。他の施設を利用したりもしていますが、立地条件や使い勝手からいってもサポセンが一番です。

それともうひとつは、人材に関する支援です。私たちも高齢化しているので人材の確保が課題になってきています。シニア活動支援センターにも相談していますが、団体の業務に関わっていただけるような人材についても、相談にのってもらえるとありがたいです。

市民協働の現場として動き出したサポセン。試行錯誤しながら、皆で一つひとつ積み重ねた結果が、今日のサポセンにつながっていることを痛感しました。“初心忘るべからず”

(担当 小松 州子)

サポセン 日記

図書コーナー

サポセン1階にある、図書コーナー。現在、3,600冊ほどの蔵書がありますが、年に1回、蔵書点検を行っています。今回は、蔵書点検の様子と、4月末に新しく入った図書の入荷風景をのぞいてみたいと思います。

◆ 3月4日 1冊1冊チェックします！

本日から、蔵書点検がスタート。スタッフが二人一組になって、いよいよ作業開始です。作業は、棚から本を全て出すところからスタートします。一人が、リストを読み上げ、もう一人が本を探し出し棚へ戻していきます。見当たらない本があれば、3,600冊の中から探し出さなければならぬため、もう大変です。

今日は、「A-1市民活動・NPO全般」の分野が終了。明日は「A-2NPO法・条例」からスタートです。これから、1ヶ月間、この作業が続くのか…。

◆ 3月26日 迷子の本はないかな…

蔵書点検も、いよいよ残りわずか。さすがに手慣れてきたもので、作業も順調に進みます。と思いきや、「R 報告書」の項目でペースが鈍ってきました。報告書を各分野の上に配置しているの、全部の棚を見ていかないと本が見つからない！

すべての棚を行ったり来たりしながら、本を探す旅は続きます。

◆ 4月26日 新しい図書が入りました！

先月、書店に注文していた本が到着！段ボールを開けると、そこには真新しい本がびっしり詰まっています。段ボールから本を取り出し、一冊ずつ注文したリストと照らし合わせていきます。

その後、サポセンの蔵書リストに登録し、図書ラベルを貼りだしたら、いよいよ棚へ運びます。新しく入った図書は、一番目立つ「新着図書コーナー」へ。

新着図書は注目度も高いため、並べるとすぐに借りられてしまいます。私も、早速1冊借りて読みたいと思います。

(担当 内川 奈津子)



◆新着図書のご案内

今回は、55冊の図書が入荷しました。会議のノウハウ本から、教育・環境など、いろいろな分野の本を揃えました。

お知らせ ●○●

事務用ブースの 使用団体を募集します！

NPOやボランティア団体など、自発的で公益的な活動を行う団体で、事務所を必要としている方々に「事務用ブース」をお貸しします。

- 使用期間 平成21年9月1日～平成22年8月31日
- 対象 継続的に市民公益活動を行い、市内に専用の事務所を持たない団体(企業を除く)
- 募集数 3ブース(予定)
- 設備等 机、いす、ロッカー 面積約4㎡
- 使用料 月額 7,000円
- 使用団体は、提出書類及び7月中旬開催予定の選考会での説明内容等をもとに選考で決定します。
- 申込受付期間 6月11日(木)～23日(火)
9:00～21:00(日曜日は17:00まで)

■問い合わせ・申し込み先
仙台市市民活動サポートセンター
TEL 212-3010 FAX 268-4042



6月の イベント紹介

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

●貸室での催し物

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
6月6日(土) 13:30~17:30	HIV/エイズと共にある ES-tea-M-Salon (エスティム-サロン)	研修室 4	無料 (事前申込不要)	東北HIVコミュニケーションズ&やろっこ Tel&Fax:022-298-8532 (小浜耕治)
6月10日(水) 19:00~20:30	『魅力的なタイトル制作の実践』 ダイレクトに伝わるタイトルのコピーとデザイン	研修室 2	1,000円 (事前申込必要)	NPOメディアデザインサポート 携帯:090-3049-0613 (千葉) Fax:022-224-5308
6月16日(火) 10:00~11:45	親業セミナー 「困った子と言わないで!」 ~親業に学ぶ子どもの接し方~	研修室 5	500円 (事前申込不要)	PETフォーラム Tel&Fax:022-281-0858 http://www.k3.dion.ne.jp/~smile55/ index.html (石田えみ子)
6月17日(水) 11:00~13:00	ベビー・チャイルドケア。マッサージ。 コスメ作り。	研修室 3	教材費として 1,500円 (事前申込必要)	Heartの会 携帯:080-1823-3146 (曾根千賀子)
6月17日(水) 19:00~20:30	簡単!プレゼンテーションの“コツ” -やるべきことと、やっちゃいけないこと-	研修室 2	1,000円 (事前申込必要)	NPOメディアデザインサポート 携帯:090-3049-0613 (千葉) Fax:022-224-5308
6月28日(日) 13:45~15:45	雲南の棚田を旅して見えた食文化事情。	研修室 5	無料 (事前申込不要)	NPOせんだい食農交流ネット Tel&Fax:022-279-2540 (岸谷)
6月29日(月) 13:30~15:00	「生涯青春、定年後の居場所探し」 定年から我人生本番、夢実現への居場所探し、地域貢献と自己実現。	研修室 5	無料 (事前申込必要) 定員30名	宮城県社会福祉協議会 (いきいきSUNクラブ) Tel:022-223-1171 Fax:022-223-1151 (八嶋豊)

●展示スペース(5F)での催し物

開催期間	タイトル	参加費	主催/問い合わせ先
6月1日(月)~ 6月14日(日)	IDAHO仙台2009 (IDAHO:国際同性愛嫌悪デー) 多様な性にYes!メッセージ展	無料 (事前申込不要)	IDAHO仙台実行委員会 Tel&Fax:022-719-3654 (内海章友)

◆サボセンの図書コーナーの本を紹介します。



『世界一あたたかい人生相談-幸せの人生レシピ』

著者:『ビッグイシュー
日本版』販売者
枝元なほみ
発行:ビッグイシュー日本
定価:1,400円(税込)

■この本は「B 人権・ジェンダー」にあります。

どんなに落ち込んでいても、お腹がいっぱいになつたら、なぜあんなに考え込んでいたんだろう、って思ったことはありませんか?そんな経験をお持ちの方にオススメの本です。

この本は、『ビッグイシュー』の中の人気コーナー、読者の悩みにホームレスが応える人生相談をまとめたものです。また、相談のほかにも、料理研究家の枝元なほみさんの「悩みに効く料理」レシピも紹介されており、心とお腹が温まる一冊です。

『ビッグイシュー』は、一九九一年にロンドンで生まれた雑誌です。ホームレスの人が販売員となり、ホームレスの人の救済(チャリティ)ではなく、仕事を提供し自立を応援する事業として、日本でも二〇〇三年九月に創刊されました。

自分と似た悩みを見つけて、うんうんと共感したり笑ったり、おいしい料理を作って、幸せな気分になつてみてはいかがでしょうか。

(担当 大西 千佳)

オススメ
今月のサボ本
『世界一あたたかい人生相談-
幸せの人生レシピ』

主催イベントのお知らせ



<申込み> TEL 022-212-3010

日時	イベント内容	会場	料金
6月16日(火) 14:30~16:00	ONPOいろは塾 90分でNPOの基礎が学べる講座を行います。	研修室5 (4F)	500円 (事前申込必要)
6月25日(木) 26日(金)	●サポセン・シアターを3倍面白くする企画 Book! Book! Sendai 「ワンダーランド・ブック・カフェ」 ～本と人と街が出会う2日間～ 本を語る・学ぶ・作る・演じるなどのイベントを開催します。 主催：杜の都を本の都にする会 問合せ先 TEL080-6039-8581	市民活動 シアター (B1F)	料金は各イベント 毎に異なります。 (事前申込必要)
7月4日(土) 13:00~19:00	○仙台市市民活動サポートセンター10周年記念シンポジウム こんな仙台に住みたいな～まちを育む市民活動とコミュニティ～ 仙台のこれからの市民活動について考えるシンポジウムを開催します。会終了後、交流会(参加費500円)も開催します。	市民活動 シアター (B1F)	無料 (交流会のみ500円) (事前申込必要)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

<申込み・問合せ> TEL 022-217-3983
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

日時	イベント内容	会場	料金
6月13日(土) 10:00~18:00	◆専門相談 懐かしい昔遊びをとおして、子どもたちと一緒に楽しく、ふれあう活動を始めてみませんか?(先着5名、1時間程度)	研修室5 (4F)	無料 (事前申込必要)
6月23日(火) 14:00~17:00	◆「出前」シニアセンター 仙台市民図書館に設けた臨時シニアコーナーにて、情報提供や相談などを行います。	仙台市民 図書館 (3F)	無料 (事前申込不要)

■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ サポートセンターのサービスあれこれ

- 貸 室(研修室・セミナーホール・市民活動シアター/有料)
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー(有料)レターケース(無料)
事務用ブース(有料)
- 交流サロン
少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース(要申込/無料)
- 情報サロン
市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書の閲覧・貸出も行っています。
市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧(無料)
- 印刷作業室
印刷機(紙持ち込み/1製版100円、紙折り機(無料))
コピー機(1枚10円)

■ 開館時間

- 平日 午前9時～午後10時
- 日曜・祝日 午前9時～午後6時

■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

5/27 6/24

■ 案内図



- 当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。
- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄りのバス停]
電力ビル前、商工会議所前、広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前
[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ

■ 編集後記 ◆サポセン10周年記念特集はどうでしたか? 10年間のサポセンの歴史がぎゅぎゅっと詰まった記事なので、スタッフは襟を正しながら読んでいます。(内川)
◆昨年、仙台で撮影された映画「重力ピエロ」が全国の劇場で公開されています。もうご覧になりましたか? この映画「仙台シネマ認定制度」の第1回認定作品です。(小松)

発行: 仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日: 2009年5月25日

編集: 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人: 内川奈津子 小松州子 葛西淳子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間: 2007年4月1日~2010年3月31日]